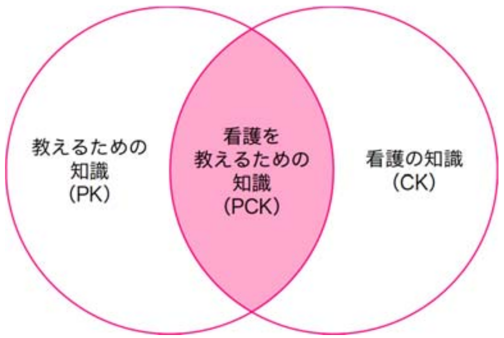
看護教員のための
アクティブラーニング入門
ー講義にALを組み込むー

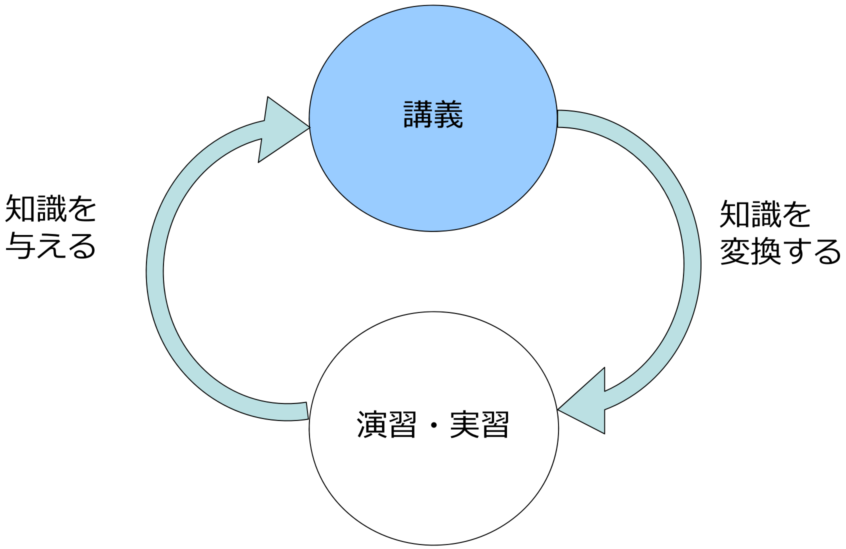
愛媛大学
教育・学生支援機構　教育企画室
小林　忠資

本プログラムの位置づけ



- Shulman(1987)の分類
  - Content Knowledge（内容の知識）
  - Pedagogical Knowledge（教えるための知識）
  - Pedagogical Content Knowledge（内容を教えるための知識）

本プログラムの位置づけ



ルール

- 互いに名前で呼び合って議論する
- すべての参加者が発言できるようにする
- 自分の考えと異なる意見も尊重する
- わからないことがあったら質問する
- 議論が台無しになるようなことは控える
- 雰囲気をよくする適度な笑いはこらえない
- 全体に報告してくれた時には拍手をする

本プログラムの目標

1）アクティブラーニングの特徴を説明することができる
2）自身の講義に組み込むことのできるアクティブラーニングの技法を選択することができる
3）効果的な学習課題をつくることができる。

1．ALを理解する

アクティブラーニングの定義

- 「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」（中央教育審議会、2012）

その他の定義

- 「一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。」（溝上 2014、p.7）

※　認知プロセスの外化とは、問題解決のために知識を使ったり、人に話したり、書いたり、発表したりすること

定義からみえる特徴

- 学生の能動的な学習活動が組み込まれている
  - 一方的な講義法とは異なる
- さまざまな能力の育成を目指す
  - ・認知的、倫理的、社会的能力
- さまざまな技法がある
  - ・発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習
  - ・グループワーク

アクティブラーニングの技法の例

ディスカッションを導く技法	シンク・ペア・シェア、ソクラテス問答法、バズ学習、ディベート、EQトーク、列討論、ライティング・ディスカッション、トランプ式討論、スイッチ・ディスカッション、ブレインストーミング、ラウンドロビン、親和図法、ポストアップ討議法、特派員、ワールドカフェ、フィッシュボウル、パネル・ディスカッション、ナンバリング・ディスカッション、LTD話し合い学習法、発言チップ、発言カード
書かせて思考を促す技法	ミニッツペーパー、大福帳、質問書方式、ダイアログジャーナル、リフレクティブ・ジャーナル、キーワード・レポート、BRD（当日レポート方式）、ラウンドテーブル、ピア・エディティング、コラボレイティブ・ライティング、クリエイティブ・セッション
学生を相互に学ばせる技法	ピア・インストラクション、ペア・リーディング、ラーニングセル、グループテスト、アナリティック・チーム、ストラクチャード・プロブレム・ソルビング、タップス、書評プレゼンテーション、ジグソー法、学生授業、橋本メソッド
問題に取り組ませる技法	クイズ形式授業、復習テスト、再チャレンジ付小テスト、間違い探し、虫食い問題
経験から学ばせる技法	ロールプレイ、サービスラーニング
事例から学ばせる技法	映像活用学習、ケースメソッド、PBL（問題基盤型学習）、TBL（チーム基盤型学習）
授業に研究を取り入れる技法	報道番組作成、ルポルタージュ作成、アンケート調査、フィールドワーク、PBL（プロジェクト基盤型学習）、ポスターセッション
授業時間外の学習を促す技法	授業後レポート、授業前レポート、スクラップ作成、反転授業

期待される効果

- 学習意欲の喚起
  - 活動を組み込むことで、学習意欲の維持や向上に寄与
- 知識の習得の促進
  - 質問に答える、説明する、教え合うなどの活動を通して、知識を理解することができる
- 知識を活用する能力の育成
  - 問題解決能力など専門的な知識を用いて問題を解決する能力を身につけることができる
- 汎用的能力の習得
  - 活動を通して汎用的能力、学士力などの幅広い能力を育成できる

看護職として求められる基本的な資質・能力

- 看護系人材として求められる基本的な資質・能力
  看護系人材として生涯を通して獲得する能力
- 社会と看護学
  社会を形作る文化・制度と健康の関連を理解する能力
- 看護学基礎
  人間、生活、健康、看護及びその関連性を理解する能力
- 看護実践の基本となる専門知識
  看護過程展開の基本を理解し、対象のニーズに合わせた看護を実践する能力

看護職として求められる基本的な資質・能力

- 多様な場における看護実践に必要な専門知識

  専門知識を活用しつつ、対象の多様性、複雑性を認識しながら、ニーズに効果的に応えるための実践能力
- 臨地実習

  看護の知識・技術を統合し実践へ適用する能力
- 看護学研究と専門性の発展

  看護の科学的探究と看護学を発展させていく能力

看護系人材として求められる基本的な資質・能力

- プロフェッショナリズム
- 看護学の知識と看護実践
- 根拠に基づいた問題対応能力
- コミュニケーション能力
- 保健・医療・福祉における協働
- ケアの質と安全の管理
- 社会から求められる看護の役割の拡大
- 科学的探究
- 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢

2． 講義にALを組み込む

アクティブラーニングの流れ

学習課題の提示

↓

学習の活動

↓

学習成果の確認

1）場面に応じて学習課題を選択する

- 講義は３つのパートで構成される
  - 導入：学習の準備
  - 展開：学習内容の深化
  - まとめ：学習の評価と振り返り

講義の型

- 導入：学習の準備を整える
  - 快適な学習環境をつくる
  - 学生の準備状況を把握する
  - 学生の興味や関心を喚起する
  - 学習目標と意義を伝える
  - 授業の全体構成を提示する

講義の型

- まとめ：学習を評価する
  - 学習内容を要約する
  - 学習成果の振り返りを促す
  - 学習の手引きを与える

2）学習目標を明確にする

- 認知的領域（知識）

記憶	学習した内容を覚えている 必要に応じて学習した内容を想起できる
理解	学習した内容の意味を理解している 学習内容を言い換えたり例をあげたりすることができる
応用	学習した内容を新たな文脈で使用できる 学習した内容を活用して問題を解決できる

- 精神運動的領域（技能）
- 情意的領域（態度）

3）目標に沿って学習課題をつくる

- 学習課題
  - 何をどのように学習するかを教員が学生に示すもの（内容と技法）
- 優れた学習課題
  - 学習目標に沿っている
    活動は手段にすぎない
  - 学生の関心と能力に合っている
    学生の予備知識や能力の把握
  - 他の学習活動と関連性がある
  - 学生の理解や思考を促す

優れた課題をつくるためには発問力

- 高血圧症を例にした発問

種類	例
基礎知識	高血圧症の診断基準とはどのようなものか
比較	高血圧症になる人とならない人にはどのような違いがあるか
原因	どのような状況で血圧の値が上昇するのか
行動	高血圧症を予防するために国の政策で何をすべきか
因果関係	食生活の欧米化は、身体にどのような影響を与えるか
発展	この授業で私が説明した以外に高血圧の原因はあるか
仮説	生活習慣が改善されれば高血圧になるリスクは抑制されるか
優先順位	高血圧症の治療法の中でもっとも有効な方法は何か
総括	Aさんの生活習慣の事例からどのような教訓が得られるか

さまざまな技法

ディスカッションを導く
- シンク・ペア・シェア
- バズ学習
- ディベート
- ワールドカフェ

書かせて思考を促す
- ミニッツ・ペーパー
- コンセプトマップ

受講者を相互に学ばせる
- ジクソー法
- グループ試験

問題に取り組ませる
- 復習テスト
- クイズ形式授業

経験・事例から学ばせる
- ケーススタディ
- ロールプレイ

看護教育の講義で用いられる技法

	記憶	理解	応用
シンク・ペア・シェア		○	
バズ学習		○	○
ディベート		○	○
ワールドカフェ		○	○
ミニッツ・ペーパー		○	
コンセプトマップ		○	
ジグソー法		○	○
グループ試験	○	○	
復習テスト	○	○	
クイズ形式授業	○	○	○
ケーススタディ		○	○
ロールプレイ		○	○

ジグソー法を活用した例（１）

- 書籍の担当部分を分ける

  『看護覚え書』の環境

  A　気候

  B　採光と照明、色彩

  C　音

  D　臭気

担当した項目の内容、感想、関連する援助内容を用紙にまとめる

ジグソー法を活用した例（２）

- 理論により分ける

  ヘンダーソン、ロイ、オレム
- 疾患により分ける

  糖尿病Ⅰ型、糖尿病Ⅱ型、妊娠糖尿病
- 事例により分ける

  事例A、事例B、事例C、事例D

４）段階的に活動に取り組ませる

- 段階的に内容を設定する

  基礎から応用

  一般から特殊

  具体から抽象

  問題から原因、解決策
- 段階的に技法を用いる

  個人ーグループー全体

  書くー話す

まとめ

- ALにはさまざまな技法がある
- 場面に応じて活用できる技法は異なる
- 目標に沿って学習課題（内容と技法）を選択する必要がある
- 学習課題は段階的に設計する必要がある
- すぐにいろいろな技法を詰め込むのではなく、簡単にできるものから取り入れる